

令和4年度 魚津市総合戦略推進委員会

魚津市総合戦略推進委員

※五十音順、敬称略

団体名	団体内 役職等	委員氏名
魚津市農業協同組合	女性部部长	大澤 ますみ
cocomama	代表	大島 恵
連合富山新川地域協議会	議長	大森 仁
魚津商工会議所	女性会会長	佐々木 咲子
北陸職業能力開発大学校	校長	清水 正明
魚津市観光協会	商工会議所総務課長	高野 剛
富山県新川厚生センター魚津支所	支所長	土肥 裕美子
魚津市男女共同参画地域推進員連絡会	広報編集委員	中島 美紀
新川森林組合	総務企画部長・加工販売部長	西島 智和
魚津漁業協同組合	代表理事	濱住 博之
公益社団法人新川青年会議所	理事長	鍼田 隼平
魚津市自治振興会連合会	会計監事	馬場 均
魚津市銀行会(北國銀行魚津支店)	支店長	北條 大輔
株式会社新川インフォメーションセンター	取締役総務部長	松岡 千穂

総合戦略推進委員会 委員意見一覧

【委員会での発言】

- ・人口減少対策の効果が出ていないことを踏まえてどうするか考える必要がある。
- ・人口減少対策は基本目標3が何より大事。優先してやっていく必要がある。
- ・子供への投資ととらえ、予算を子育て世代に使ってほしい。
- ・多子世帯への手厚いサービスを実施すべき。
- ・不妊治療への補助は必須であり、産科医と連携や心のケアなども必要。
- ・これまでやってきた取組が機能しなかった理由は？
- ・子供への投資を、企業版ふるさと納税を財源として実施すればよい。市内他産業の納得を得られるだろう。
- ・こども医療費助成等、子供への施策は新川広域圏の他自治体と比べるといつも一番最後という印象がある。
- ・多子世帯の上の子への支援がない。多子世帯の上の子への支援は、子供への投資のほかに、基本目標3の教育の充実にもつながる。
- ・市内中小企業の子育てを支援する職場環境の充実に支援してほしい。生産額に反映していく。
- ・第1期について目標達成率が低い。民間企業ではありえない。職員の意識改革が必要。
- ・市の事業は「誰に向けて、どうなりたくて」やっているのかわからない事業がある。結果、継続しない。

【意見提案用紙】

戦略計画について

- ・高すぎる達成目標は職員の負担となり「働き方改革」に逆行する
- ・K P I の達成状況は、具合的な施策ごとに達成度を示したほうが良い。
- ・会議では基本目標 3 を第一にという意見が出たが 1~4 それぞれが大事であり、順位はない。
- ・自分の関連しない分野についても理解を深めたいと感じた。

人口減少対策について

- ・転入よりも、市民や市内企業を転出させないようにすることが大事
- ・人口規模に関しては、新川広域全体で考える必要がある。
- ・若年層の収入増につながるような制度を整える（ダブルワークを許可する企業の増加や誘致等）。
- ・魚津市は固定資産税が高いので、特に若年層世帯の減税制度があるとよい。
- ・子どもを持つ若年層父母が惹きつけられるような、特徴ある保育・教育施設（海や山等、自然との共生に重点をおいた施設・英語教育に特化した施設・I T に特化した施設等）の誘致や設置を行う。
- ・（総合公園賑わい創出事業関連）道の駅と連動していればよいなどと思う。
- ・（総合公園賑わい創出事業関連）みらパークにキャンプ場を整備したりトイレの改修も行い、行きたくなる空間を作る（なんか寂しいと思う）。
- ・（ママと子どもが輝くまちづくり事業を紹介したことに対し）単純に、何故、“ママ”だけなのかなと思ったが、子育ての中心がママだからですね。ママが解放される場もあるとよいかなと。
- ・長い目でみると、市民の健康寿命を延ばすことで市が負担する医療費や介護に

係る費用を抑えることができ、抑えられた予算を子育て応援にまわすことができればよい循環となるのでは。そのためには、市民ひとりひとりが健康づくりの意識を高め、実践することが必要であり、現行の施策を検証しながら効果的な市民への働きかけを継続していく。

- ・人口問題は、「ある施策があれば効果的」ということではなく大変難しい。多面的な対策は、市の政策と関係者、住民の理解と協働が重要。

- ・女性の自立によって、晩婚化や結婚しない、核家族化が進んだことで出生数が少なくなっている。

- ・魚津市に家を建てない理由は、魚津市は山が70%を占めており土地を使用できる部分が少ない、地価が高い、企業が少ないということもあるだろう。

- ・国は、都市集中型から地方に分散といっている。国と情報連携を密に取ってほしい。

- ・出生率の上昇を最優先に取り組む。そのための施策に予算を取る。

- ・教育の現場で地元愛を深める対策をとる。

- ・企業が流出し、黒部、滑川、富山などに働きに行っている人が多い。魚津市は水が美味しいし豊富にあるので飲料メーカー会社がいいのではないか。

- ・山から海まで25kmの扇状地帯を利用し、海野観光や片貝の洞杉等観光ルートを整備して県外に情報発信する。

- ・体験型宿泊施設を何か所か設け長期滞在できるようにする。生産者に協力してもらいオーナーを募集する。新しい人の流れが生まれるのではないか。

- ・子育て支援を充実して安心して子供を出産育児ができる環境を整える。

- ・婚活イベントを応援する。

- ・住宅環境を改善する。市営住宅の家賃改善をする。

- ・各地区でSDGsに取り組むべき。
- ・市民を巻き込んで勉強会を開き意識改革をする。
- ・地産地消出地域の商品を最大限に活用する。

行政全般について

- ・市内企業、関係団体と連携していくことが大切。
- ・企業版ふるさと納税に力を入れ、魚津市存亡の危機を企業側にも共有してもらう。
- ・行政は取組により分断（世代間、所得格差等）が極力生じないように目を配ることが必要。
- ・職員は当事者意識を持ってほしい。